

臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞	発熱性好中球減少症によるアルベカシンクリアランスへの影響
＜研究機関・研究責任者名＞	日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部（研究責任者）中山 貴裕
＜研究の実施体制＞	多施設共同研究で当院が責任機関
＜研究期間＞	承認日 ～ 2022年12月31日
＜研究の目的と意義＞	発熱性好中球減少症は、細菌と戦うために必要な好中球の減少に伴う発熱のことで、重症な感染症です。感染症の原因となる細菌を抑える治療としてアルベカシンという抗菌薬がよく使用されます。アルベカシンは、点滴で使用する薬剤であり、治療効果を高めるために血液中にあるアルベカシンの濃度を一定に保つことが必要とされています。しかし重症な病気に罹患するとアルベカシンの濃度が一定に保たれず、薬剤の効果を十分に発揮できない場合があります。この現象は発熱性好中球減少症でも見られますが、その詳細は十分に調査されていません。そこで本研究では、血液腫瘍の治療目的で当院血液膠原病内科に入院し、治療の過程でアルベカシンを投与された患者さんのデータを用いて、アルベカシンの血液濃度に対する発熱性好中球減少症の影響を解析することを目的とします。
＜利用する試料・情報の項目＞	・診療録、検査データ 診療録の中から、年齢や体重をはじめ血圧や体温のバイタルサイン、臨床検査値などのデータを用います。
＜対象となる患者さん＞	2010年1月1日～2015年12月31日の期間に 血液腫瘍の治療目的で当院血液膠原病内科に入院し、治療の過程でアルベカシンを投与された患者
＜研究の方法＞	2010年1月1日から2015年12月31日の期間において、血液腫瘍の治療目的で血液膠原病内科に入院された患者さんのうち、アルベカシンという抗菌薬を使用された患者さんのデータを用います。当院における日常臨床において記載されているカルテ内から、年齢や体重をはじめ血圧や体温のバイタルサイン、臨床検査値などの患者さんのデータを取得し、解析を行います。研究結果は、学会や論文を通じて公表されますが、解析に用いられるデータは匿名化するため、個人が同定されることはありません。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

薬剤部 氏名:中山 貴裕

電話:03-3972-8111 内線:(PHS)3014

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)